

<b>第2回シンポジウム</b> <b>千葉県まちづくりシンポジウム - うるおいのあるまちづくりと都市交通 -</b>	
テーマ	『うるおいのあるまちづくりと都市交通』
開催日	平成10年6月30日(火)
参加者数	約450人
内容	<p>基調講演「うるおいのあるまちづくりと都市交通」  大西 隆（東京大学先端科学技術センター教授）</p> <p>パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テーマ：「うるおいのあるまちづくりと交通計画」</li> <li>• コーディネーター：  大西 隆（東京大学先端科学技術センター教授）</li> <li>• パネリスト：  鈴木 春男（千葉大学文学部行動科学科教授）  寺田 一薫（東京商船大学商船学部助教授）  川端 直志（（株）ケイ・プランナーズ代表取締役）  白石 真澄（ニッセイ基礎研究所都市開発部副主任研究員）  （敬称略）</li> </ul>
パネルディスカッションでの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「うるおいのあるまちづくりと都市交通」への提言</li> </ul>

## 第2回シンポジウム：主な意見

平成10年6月30日開催

### ■ 「うるおいのあるまちづくりと都市交通」への提言

- まちづくりを考えると、広域的な交通諸機関の連携が大変重要であり、特に機能性のみでなく、人間的な部分を含めて連携させることが大切である。住民一人ひとりが自分の目線で居住環境あるいは地域そのものをチェックし、そこから提言し、まちづくりに参加していくことが重要なポイントとなる。
- 交通に求められている要素は大量性・速達性であるが、これからは交通機関相互の連携性が重要であり、そのキーとしてバスの活用が考えられる。特に、平成13年度からは営業エリアが撤廃され、自由かつ広範囲なバス営業が可能となることから、交通計画の大枠の方向性を打ち出し、その方向性に沿ってきめ細かな対応を進めていくことが重要である。
- 都市化の中の高齢化は量から質へと変化している。世帯規模の縮小により核家族化が進み、高齢者のみの世帯が増加し、また、介護を必要とする高齢者も増加する一方、これからも社会参加を継続的にしていこうという価値観を持った高齢者も増えてくる。自由な移動を保障する交通においては、一人でも多くの高齢者が利用できる公共交通機関の整備が最優先課題である。また、公共交通における全体的な底上げを考えていかなければならない。
- まちづくりや交通を考えると、最も大切なことは、日々送られるライフスタイルに基本をおくことである。そこに住む人々が何を目的に暮らし、何を望んでいるかが重要となる。この基本に立って、一地域でなく広域的な視点で交通と土地利用を密接に結びつけながらまちづくりを進めることが大切である。
- 交通は相当なレベルまで発達してきたが、これからはもっと身近な交通環境を充実させていかなければならない。生活者の視点から交通を見直し、それぞれの参加者が意見を言う。行政はそれを受け止め、実行できるものはすぐ実行する。このような具体的な形で改善されていく中で、『うるおいのあるまちづくりと都市交通』が一步一步実現されていくことになる。